

|       |                |      |     |       |      |
|-------|----------------|------|-----|-------|------|
| 授業科目  | 構音障害 I (臨床の基礎) |      |     |       |      |
| 担当者   | 藤原百合           |      |     |       |      |
| 専攻(科) | 言語聴覚専攻科        | 学 年  | 1 年 | 総単位数  | 1 単位 |
|       |                | 開講時期 | 前期  | 選択・必修 | 必修   |

### ■ 授業目的・内容

正常な発話のメカニズムや発達を理解し、構音障害を来す原因や関連要因について学ぶ。主に機能性構音障害について、鑑別診断、評価方法、指導方法について学ぶ。また、実際の音声サンプルを用いて、評価・指導プログラムの立案の演習を行う。

### ■ 到達目標

- ・ 正常な発話のメカニズムを踏まえ、構音障害の概要について理解する。
- ・ 機能性構音障害に対する評価・指導を模擬的に実施できる。

### ■ 授業計画

- 第1回 正常な発話のメカニズム (呼吸、発声、共鳴、構音)
- 第2回 日本語音の種類 (母音、子音)
- 第3回 日本語音の音声表記演習
- 第4回 話しことばの発達
- 第5回 発達途上で見られる音の誤り
- 第6回 特異な構音操作による誤り
- 第7回 発話が不明瞭な子供の診方
- 第8回 構音障害の原因、関連要因
- 第9回 構音検査法
- 第10回 構音評価 (演習)
- 第11回 構音指導法
- 第12回 構音指導 (演習)
- 第13回 事例によるグループ演習 1
- 第14回 事例によるグループ演習 2
- 第15回 まとめ

### ■ 評価方法

科目試験 (筆記試験) 80% 小テスト 20%

### ■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

前もって講義資料を配布しますので、教科書の該当箇所を予習、復習してください

### ■ 教科書

書 名：標準言語聴覚障害学第3版 発声発語障害学  
 著者名：藤田郁代監修 城本修 原由紀編集  
 出版社：医学書院

### ■ 参考図書

|  |
|--|
|  |
|--|

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。